

みどりの風

「免許返納」は要介護老人を増やすだけ

NO.62

発行・編集責任 (緑風会会長 大矢正明)

和田秀樹

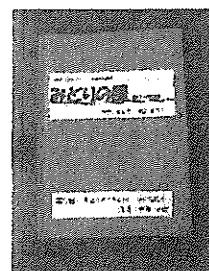
現在 62 号発行している「みどりの風」ですが、第 1 号から 50 号までをまとめて冊子にしたのを読んだ友人(透析患者ではない)が一読して以下のような感想を寄せてくれましたので紹介します。

「みどりの風」を読んで 前向きに取り組む、「生きることに貪欲」感動しました

「みどりの風」一気に読みました。感動しました。

粘り強い取り組みで、会員拡大、そして毎年の請願活動。人工透析を受けていた知り合いが近所にいました。透析をしていると日々の生活を送るだけでも大変と思うのに、何ごとにも常に前向きに取り組む、「生きる」ことに貪欲でどこからこのパワーがでてくるのかと驚かされるだけでした。「みどりの風」を読んで少し分かったような気がしました。

人工透析は大変な費用がかかる。現在の制度がなかったほど前は、お金がない人は死を選ぶしかなかった。現在の格の比ではない。現在の制度ができたのは与えられたのではな



「みどり

50 年
差社会
く、人工

した。心に残る数々の言葉があり元気をもらいました。

『金の切れ目が命の切れ目』

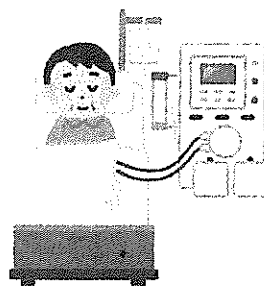
『透析患者は災害時に、遠慮などせず「自分で、自分を守る積極性」が必要』

『病院関係者の請願よりも、患者の請願が力になる』

『守るのでなく元気で長生きの透析』

『透析患者は「きょういく」「きょうよう」が大事

「今日行く所がある」「今日用事がある」



ありがとうございました。毎年の請願署名できる範囲で協力します。(S.U)

感謝 ご協力ありがとうございました。最終結果

請願署名

透析関係 388 筆
難病関係 376 筆

募金

会費より 32,000円 (500円×64人)
個人 23,500円